

# 令和元年度活動報告

---

## 江角学びの交流センター

当センターは本学の附属機関として、地域社会に開かれた窓口としての機能を担い、各学科・専攻の学生・教職員による主体的かつ組織的な地域貢献活動を推進している。その内容は 自治体や産業界との連携事業、市民講座の開講、学生ボランティア活動の支援、社会人のためのリカレント教育の充実、地域志向の教育課程の編成等々幅広い分野にわたっている。数年前当センターに地方創生推進室を立ち上げ、全学的な地域貢献活動の情報を集約している。

個々の活動内容の詳細については、主に本学公式ホームページで随時情報発信している。また、年度末の「評議員会」(当センター規約第7条)では、自治体および産業界からの学外評議員を委嘱し、本学の地域貢献活動およびそれと連動した教育課程について、客観的に評価していただき意見聴取をしている。その資料集「江角学びの交流センター事業概要」を下記 URL にて毎年公開しているので、ご高覧いただければ幸いです。

<https://www.k-junshin.ac.jp/juntan/ezumi-center/>

### 1 地域人間科学研究所

○「かごしま学Ⅰ」公開講義(かごしま県民大学連携講座)・文化講演会  
本学正規授業「かごしま学」の講師として長年教鞭を取っていただいた小川学夫名誉教授(元地域人間科学研究所所長)が、平成30年度第69回「南日本文化賞・学術文化部門」(南日本新聞社主催)を受賞されたことを記念し、奄美の島唄をテーマに公開講義・文化講演会を開催した。島唄の映像・音源を流しながらの講演で、聴衆はしばし島唄の世界に身を置いた。その講演内容の詳細については、本誌において「特別講演」

として掲載している。

演題：島唄にみる奄美の女性像

講師：小川学夫（本学名誉教授）

日時：令和元年6月27日（木）14:50～16:20

会場：本学大講義室（入場無料）

主催：鹿児島純心女子短期大学 江角学びの交流センター地域人間科学研究所

共催：かごしま県民大学中央センター「かごしま県民大学連携講座」

後援：鹿児島市教育委員会 南日本新聞社

対象：本学学生・教職員・一般

入場者数：約150名（一般30名を含む）

#### 講師プロフィール

1940年生まれ。北海道北見市出身。早稲田大学大学院在学中に奄美に移住。島唄を中心とした民俗学および鹿児島県の文化論研究に従事する。新聞社等の勤務を経て1990年から鹿児島純心女子短期大学で教鞭を取り、南島文学、地域文化論などを担当。1995年～2007年本学図書館長、1996年～2007年本学地域人間科学研究所所長を歴任。2008年より本学名誉教授。近年、『奄美民謡総覧』南方新社（2011）、『歌い継ぐ奄美の島唄』奄美島唄保存伝承事業実行委員会（2014）の編集に携わる。積年の島唄研究の業績により、2006年「第30回南海文化賞」、2018年「第69回南日本文化賞（学術文化部門）」を受賞。著書）

『奄美民謡誌』法政大学出版局（1979）『奄美の島唄』根元書房（1981）『民謡の島の生活誌』PHP研究所（1984）『歌謡（うた）の民俗 —奄美の歌掛け—』雄山閣出版（1989）『奄美シマウタへの招待』春苑堂出版（1999）

共著）

『わらべ歌、子供の文学』（岩波講座日本文学15巻 琉球文学、沖縄の文学）岩波書店（1996）『奄美の唄者』講座日本の伝承文学8 在地伝承の世界〔西日本〕三弥井書店（2000）『対話する歌謡—奄美

想林第11号

の歌を例に一（日本歌謡研究大系上巻 歌謡とは何か）』和泉書院（2003）

論文）

「私の奄美民謡研究」『想林』創刊号（2010）「奄美の島唄を通して見た生きた文化の伝承—この50年の島唄の変遷」『想林』第4号（2013）他多数。

講演の様子



会場の様子



小川学夫氏

2 生涯学習支援室

(1) 「純心市民講座」

令和元年度「純心市民講座」各講座の実施状況は表1のとおりである。

表1 令和元年度「純心市民講座」実施状況

講座区分	講座名	担当講師	対象	受講者数	会場
人間大学 (かごしま大学連携講座)	かごしま学・文化講演会 島唄に見る奄美の女性像	松尾 千歳	一般成人	約150名	本学大講義室(27号館604室)
	シルバー世代のための健康・教養講座 7/13~9/14 土曜 13時半~15時半 (全5回)	河野 一典 小玉 智治 進藤 智子 久保田 瑞成 奥村 和滋	一般の方	延べ52名	かごしま県民交流センター
外国語講座	英会話 初級 (春季) 5/14~7/2 火曜 18時半~20時 (全8回)	David O'Connor	16歳以上の方	6名	鹿児島大学 法文学部 (1号館2階 演習室5)
	英会話 上級 (春季) 5/14~7/2 火曜 18時半~20時 (全8回)	Matthew Watson	18歳以上の方	8名	鹿児島大学 法文学部 (1号館2階 演習室6)

令和元年度活動報告

講座区分	講座名	担当講師	対象	受講者数	会場
外国語講座	英語講義・異文化交流 5/22～7/17 水曜 18時半～20時 (全5回)	Nikolay Gyulemetov David O'Connor Matthew Watson	18歳以上の方	9名	鹿児島大学 法文学部 (1号館2階 演習室6)
	好っじゃ韓国語 入門 (春季) 5/16～7/4 木曜 19時～20時半 (全8回)	李 賢雄	16歳以上の方	4名	鹿児島大学 法文学部 (1号館2階 演習室6)
	好っじゃ韓国語 中級 (春季) 5/15～7/3 水曜 19時～20時半 (全8回)	李 賢雄	18歳以上の方	4名	鹿児島大学 法文学部 (1号館2階 演習室6)
	英会話 初級 (秋季) 9/24～11/19 水曜 18時半～20時 (全8回)	David O'Connor	16歳以上の方	11名	鹿児島大学 法文学部 (1号館2階 演習室5)
	英会話 上級 (秋季) 9/24～11/19 水曜 18時半～20時 (全8回)	Matthew Watson	18歳以上の方	10名	鹿児島大学 法文学部 (1号館2階 演習室6)
	好っじゃ韓国語 入門 (秋季) 9/26～11/14 木曜 19時～20時半 (全8回)	李 賢雄	16歳以上の方	6名	鹿児島大学 法文学部 (1号館2階 演習室6)
	好っじゃ韓国語 中級 (秋季) 9/25～11/13 水曜 19時～20時半 (全8回)	李 賢雄	18歳以上の方	3名	鹿児島大学 法文学部 (1号館2階 演習室6)
	はじめての英会話 (幼児コース・春季) 6/22～7/27 土曜 ①4・5歳児コース 9時～9時50分 ②5・6歳児コース 10時～10時50分 (各コース 全5回)	John Tremarco	就学前の児童 (4～6歳)	①12名 ②6名	本学 江角学びの交流センター プレイルーム
	はじめての英会話 (小学生コース・春季) 6/22～7/27 土曜 ①初心者コース 9時～9時50分 ②高学年コース 10時～10時50分 (各コース 全5回)	David O'Connor	小学生	①18名 ②4名	本学 2号館104教室
	はじめての英会話 (幼児コース・秋季) 9/21～11/2 土曜 ①4・5歳児コース 9時～9時50分 ②5・6歳児コース 10時～10時50分 (各コース 全5回)	John Tremarco	就学前の児童 (4～6歳)	① 9名 ② 6名	本学 江角学びの交流センター プレイルーム
はじめての英会話 (小学生コース・秋季) 9/21～11/2 土曜 ①初心者コース 9時～9時50分 ②高学年コース 10時～10時50分 (各コース 全5回)	David O'Connor	小学生	① 8名 ② 7名	本学 2号館104教室	
生活学講座	夏野菜を使ってフレンチを作りましょう! 7/20 (土) 10時～13時	大山 典子	一般成人	20名	本学 調理室 (1号館202教室)
	親子で楽しくクッキング 8/8 (木) 10時～13時	中馬 和代	小学生と保護者	18組 42名	本学 調理室 (1号館202教室)
	親子で楽しく実験! 8/7 (水) 13時～16時	三島 朋子	小学生と保護者	18組 47名	本学 実験室 (1号館401教室)
	大島紬でコサージュを作ろう	濱崎 千鶴	一般成人	12名	本学 被服実習室 (2号館303教室)

## 講座の様子



はじめての英会話（小学生コース）



大島紬でコサージュを作ろう

前身の「生涯学習センター」が発足して30余年が経過し、平成という時代とともに歩んできた本学の純心市民講座は毎年20余講座を開講するに至っている。働く社会人、子育て中の親、高齢者の方々等広く学卒者の学び直しのニーズに応えたいという所期の目的は、発足当初から変わらず継続している。昨今「リカレント教育」の重要性が認知され、社会人になってから大学に回帰する流れを創造・発展させることは大学の使命となっている。個人的にも社会的にも生涯学習・学び直しに向かう気運が高まることを願いたい。

### (2) 2019年度「保育士等キャリアアップ研修」

①令和元年9月2日(月)、5日(木)、9日(月) 9:00～16:00

研修分野：マネジメント

担当講師：丸田なつき（鹿児島純心女子短期大学専任講師）

中村誠文（鹿児島純心女子大学大学院専任講師）

松本宏明（志学館大学准教授）

②令和2年2月19日(水)、2月20日(木)、2月21日(金) 9:30～16:30

研修分野：食育・アレルギー対応

担当講師：中馬 和代（鹿児島純心女子短期大学教授）

榎順子（鹿児島純心女子短期大学准教授）

## 令和元年度活動報告

③令和2年2月25日(火)、26日(水)、27日(木) 9:00~16:00

研修分野：幼児教育

担当講師：味園佳奈（鹿児島純心女子短期大学准教授）

河野共芳（鹿児島大学教育学部附属幼稚園教諭）

永野優希（鹿児島大学教育学部附属小学校教諭）

### 研修の様子



本学のリカレント教育をまとめると以下のとおりである。

ア)「科目等履修生」になれば（いくつかの条件をクリアする必要があるが）、全授業科目が一般の方々に開かれている。

イ) 特定の職業訓練を目指す「履修証明プログラム」は、平成30年度より4つのプログラムを公開している。1年間で本学の正規授業4～5科目を組み合わせ受講すると、一定の職業的知識・技能を習得することができる。

ウ)「保育士等キャリアアップ研修」を本学でも平成30年度より開講

している。この制度は保育者の質を高めるためるとともにそれに応じた処遇改善目的とするものであるが、多くの社会人の方々が本学のキャンパスを訪れ、新鮮な空気感をもたらしている。

開講科目を常に検討し、学生のみならず多くの社会人の方々のニーズに応えられるように努めたい。

今後とも当センターの活動が本学の教育・研究機能を活性化するとともに、市民生活に寄与し地域社会の学びの交流の橋渡しとなれるよう努める所存である。皆様のご協力ご支援を仰ぎたい。

(文責 河野一典)

### 3 こどもの未来支援室

今年度も「純心こども講座」として2講座を企画・実施した。概ね2歳から就学前の子どもとその親を対象とした講座で、吉留早木子氏に「リズムあそび」を、榎本容好氏に「いろとあそぼう・かたちとあそぼう」講師を担当いただいた。今年度は、5月・6月・10月・12月の各月に1回、合計4回開講した。昨年度までは5月～7月の期間に月1回のペースで開講していたが、こども講座参加者から秋以降にも実施して欲しいとの声を多数いただき、ようやく実施の運びとなった。

開講日などは、表2に示すとおりである。

表2 令和元年度「純心こども講座」実施状況

講座名	回	期日	担当講師	定員	受講者数
リズムあそび 本学:体育館	1	5/11	吉留 早木子	30組	39名 26組
	2	6/1			37名 23組
	3	10/12			34名 21組
	4	12/14			38名 22組
いろとあそぼう・かたちとあそぼう 本学:プレイルーム	1	5/11	榎本 容好	20組	13名 11組
	2	6/1			17名 11組
	3	10/12			17名 12組
	4	12/14			16名 12組

「純心こども講座」は、本学こども学専攻1年生の実習の場を兼ねている。幼稚園や保育園の先生を目指す学生が在籍しており、入学してすぐの学生たちが、実際の子どもの姿に触れることができる貴重な機会となっている。今年度は、それぞれの講座を34名ずつの学生が担当した。

## 令和元年度活動報告

講師の先生の指導のもと、講座の開講時期に合わせたテーマを設け、役割分担をしながらそれぞれの講座を作り上げた。学生たちの取組みは、参加いただいた保護者の方々にも伝わっているようで、各講座の最終回に実施した受講者アンケートでは、これまでと同様に「講座の内容に非常に満足・満足」の回答が9割以上となり、今年度の講座も一定の評価ができる内容となったといえる。



「リズムあそび」「いろとあそぼう・かたちとあそぼう」の様子

先にも述べたように、今年度はようやく実施回数を増やすことができた。耐震工事により駐車スペースの確保が難しくなっていた等の学内の事情が解消されたのを機に、講座参加者の回数を増やして欲しい、秋の講座も開講して欲しいという声に応える形で4回実施とした。5月・6月の時期と10月・12月の時期に実施し、学生も「リズムあそび」「いろとあそぼう・かたちとあそぼう」の両方の講座を経験できるようにした。

講座の実施回数は増やせたものの、実施の日程や申し込み方法の点については課題が残った。

日程については、「こども講座」はきょうだいで参加いただくことが多いこと、リピーターが多いことが特徴であるが、実施日を第二土曜日を中心に設定したため、上に小学生の子どもがいる方からは、上の子どもも連れて来たかったといったご意見や、上の子どもが下校するまでに帰宅しなくてはいけないため、参加できない回があったといったご意見をいただいた。こども講座を小学生になっても楽しみにしていただいていることに勇気付けられるとともに、次年度からは、小学生のきょうだいがいても参加しやすいよう、開講時間を早めるなど対応していき

い。

申し込み方法については、12月までの予定がはっきりしていない状況で申し込んだので参加できない回があった、2回ずつの方が申し込みやすいとご意見をいただいた。次年度は2回ずつ申し込めるようにすることで申し込みやすくするとともに、同じ講座を4回でも、両方を2回ずつでも可とし選択の幅を広げ、新たな参加者の確保にも繋げていきたい。

今年度も地域の皆様をはじめ、様々な方々のご理解とご協力により、おかげさまで無事に「純心こども講座」を実施できた。皆様に深く感謝申し上げます。次年度も地域とのつながりを大切にしながら、よりよい活動を提供していきたい。

(文責 森木朋佳)